

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	論理学		担当者 資格・役職等	短期大学非常勤講師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護師として社会的責任のある言語表現ができることをねらう。				
授業の概要	<p>社会的責任を担う公的な文章の書き方、公的な話し方の場面を設定する。題材は新聞記事などを使う。</p> <p>1 文章の書き方      説明、解説、報告 等 2 話し方              質問、指示、問題提起 等</p> <p>具体的に認識・思考・言語技能を十分に働かせて表現する演習・講義を工夫し、自己評価・客観的評価によって、自身の公的な言語表現を高め、論理的思考を身につける。</p>				
授業計画	<p>1 オリエンテーション 2時間</p> <p>○授業の全体計画を説明 社会的責任のある公的な言語表現としての、書くことばの特性、話すことばの特性の概括的理解</p> <p>○授業の基底</p> <p>①読解力・傾聴力を身に着ける ②作文力を高める ③話し方とプレゼンテーションの力を高める ④レポート提出、スピーチの実践 ⑤授業記録により評価する</p> <p>2 文章の書き方 18時間</p> <p>①文の書き方の原則を学ぶ 要約文、説明文、レポート、小論文等の書き方を学ぶ。新聞、書籍、テレビ、ネット等諸メディアの特性と利用法に理解を深める</p> <p>②要約文、説明文、レポート等を実際書いて講師に提出、講師が添削、評価する</p> <p>3 話し方とプレゼンテーション 8時間</p> <p>①看護師に必要な話し方、非言語表現を学ぶ。効果的なスライドやレジュームの作り方、質疑応答、討論についても学習する</p> <p>②目的に応じたスピーチ、対話、グループでの話し合い、討論を実際に行ってみて、評価し合う</p> <p>4 自己評価の総括 2時間</p> <p>社会的責任を担う公的な文章の書き方、公的な話し方について</p>				
テキスト	「スタートアップセミナー 学修マニュアル なせば成る！」 山形大学編（山形大学出版会）				
参考文献	「井上ひさしと141人の仲間の作文教室」井上ひさしほか（新潮文庫）				
成績評価の方法	授業記録・小論文 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	短期大学非常勤講師が論理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	情報科学		担当者 資格・役職等	専門学校非常勤講師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	看護研究等、実際に活用できる知識と技術を習得する。				
授業の概要	情報の管理・利用を正しく理解し、情報の処理、表現方法について実技を通して学ぶ。				
授業計画	1. 情報科学の基礎およびパソコン実習 ハードウェア・ソフトウェア概要とキータッチ実習 2回 Word入門 5回 Excel入門 4回 PowerPoint入門 2回 2. 医療における情報システムと文献検索の方法 1回  試験				
テキスト	看護情報学 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	実技試験 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	専門学校非常勤講師が情報科学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	生物学		担当者 資格・役職等	大学准教授	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	<p>高校理科選択制や個人差による生物学の知識・理解力の差を補償するとともに、専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解することを目標の1つとする。また、多様な生物の存在のおかげで人間が地球という環境で生きていくことが可能となっていることの理解をもう1つの目標とする。</p>				
授業の概要	<p>講義内容は、1) 生体を構成する物質、2) 細胞の構造と機能、3) 人体を構成する組織・器官、4) 生体の恒常性、5) 生体の発生と遺伝、6) 生命の進化、7) 多様な生命の存在とその意義等を順次学習する。</p>				
授業計画	<p>1.生物学を学ぶ意義</p> <p>2.生体を構成する物質 原子、分子、イオン結合、共有結合の基礎的理解</p> <p>3.生体を構成する物質 炭水化物、脂質、タンパク質、核酸等の概説</p> <p>4.細胞の構造と機能 細胞内小器官の概説、浸透圧・物質の局在と移動の解説</p> <p>5.人体を構成する組織・器官 消化器系、心臓血管系、呼吸器系、泌尿生殖系</p> <p>6.人体を構成する組織・器官 骨格系、筋肉系</p> <p>7.人体を構成する組織・器官 血液中の成分、免疫系</p> <p>8.人体を構成する組織・器官 神経系 ニューロン、感覚器の基本的解説と感覚情報処理 (視覚系、聴覚系、平衡感覚、嗅覚、味覚)</p> <p>9.人体を構成する組織・器官 神経系 高次脳機能の解説 (体温調節、多重人格、記憶学習、認知症)</p> <p>10.生殖と発生 胚発生、内臓の発生、脳・神経系の発生分化</p> <p>11.細胞分裂と遺伝 体細胞分裂・減数分裂と染色体の分配の解説</p> <p>12.遺伝と遺伝病 メンデルの遺伝の法則、血液型とその遺伝、赤緑色覚異常、染色体異常他遺伝病解説</p> <p>13.生命の進化と地球環境の変化 藍藻による好气的環境の出現、ミトコンドリア共生説解説、地球温暖化のもたらす危機</p> <p>14.多種多様な生命の存在とその意義 多種多様な生物と地球環境、薬開発</p> <p>15.試験</p>				
テキスト	*プリント配布				
参考文献					
成績評価の方法	レポートと最終テストで評価する。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	神経生物学を専門とする大学准教授が生物学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	心理学		担当者 資格・役職等	臨床心理士/公認心理士	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	心理学一般の基本的知見を得ること、また、看護職が直面しやすいところの問題について学ぶことによって、人間理解を深める。				
授業計画	1. 心理学とは 2. 感覚と知覚 3. 記憶 4. 思考、言語、知能 5. 学習 6. 感情と動機づけ 7. 性格、パーソナリティ 8. 社会、集団 9. 発達 10. 臨床 11. 医療や看護と心理  第15回 筆記試験				
テキスト	「心理学」 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	授業内レポート、筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	病院臨床心理士が心理学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	人間関係論		担当者 資格・役職等	臨床心理士 保育士・保育士	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	<p>看護ケアや福祉援助を行うに際して人間関係の諸問題は大きな課題である。そこで多様な人間関係の性質や傾向をライフサイクルや社会的状況に照らし合わせて学ぶ。さらに人間関係をよくする方法も考えていく。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係の基礎</li> <li>2. 人間関係の中の自己</li> <li>3. 出会いからの人間関係の展開</li> <li>4. 非言語的コミュニケーション</li> <li>5. 言語的コミュニケーション</li> <li>6. 好意的人間関係</li> <li>7. 嫌悪的人間関係</li> <li>8. 支配の人間関係</li> <li>9. 服従の人間関係</li> <li>10. 攻撃の人間関係</li> <li>11. 集団の中の人間関係</li> <li>12. 人間関係をよくする方法</li> <li>13. コミュニケーション技術・再構成演習</li> <li>14.                 "</li> <li>15. 試験</li> </ol>				
テキスト	人間関係論　（医学書院）				
参考文献	なし				
成績評価 の方法	授業中のミニレポートと筆記試験により評価。 合計60点以上で合格とする。				
授業科目 の教育内容	スクールカウンセラーや企業内相談室での経験を持つ臨床心理士が人間関係論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	英語		担当者 資格・役職等	高等学校教諭免許	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	英語に親しみ、看護師として必要な日常英会話を学び、英語に対する興味を高める。				
授業の概要	看護場面での英会話（実技）				
授業計画	1. Unit4 初診時の会話表現 Be動詞 [現在形] の平叙文 2. Unit4 初診時の会話表現 演習 Be動詞 [現在形] の否定文 3. Unit5 道順の尋ね方 Be動詞 [現在形] の疑問文 4. Unit5 道案内の会話演習 Be動詞 [過去形] の平叙文 5. Unit5.6 症状の尋ね方1・症状と徴候表現 Be動詞 [過去形] の否定文・疑問文 6. Unit6 症状の答え方 一般動詞 [現在形] の平叙文 7. Unit6・7 症状の尋ね方2 一般動詞 [現在形] 否定文 8. Unit7 症状の尋ね方3・症状表現の演習 一般動詞 [現在形] の疑問文 9. Unit7 人体各部の名称 一般動詞 [過去形] の平叙文 10. Unit8 病歴の尋ね方 一般動詞 [過去形] の否定文 11. Unit8 病歴に関する質問と応答表現 一般動詞 [過去形] の疑問文 12. Unit8・9 内科予診票に関する質問と応答演習 現在進行形 13. Unit9 薬の服用表現 過去進行形 14. Unit9 薬袋の説明表現 現在完了形 15. 試験				
テキスト	クリスティーンのやさしい英会話 医学書院				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	元高等学校教諭が英語について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	演習	
授業科目	体育		担当者 資格・役職等	専門学校非常勤講師	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	身体活動を通じた、心身ともに健やかな人間の形成を目標とする。				
授業の概要	<p>アイスブレイクやレクリエーションを行い、人と関わるなかで自己と他者についての理解を深める。</p> <p>ゴール型やネット型のスポーツを行う中で、健康体力の向上を図るだけでなく、受講者全員が楽しめるルール創りを皆で行うことにより、協働・調和を促す。</p>				
授業計画	(内 容)		(場 所)		
	1. オリエンテーション		サンライフ長野		
	2. アイスブレイク I		サンライフ長野		
	3. アイスブレイク II		サンライフ長野		
	4. アイスブレイク III		サンライフ長野		
	5. レクリエーション I		サンライフ長野		
	6. レクリエーション II		サンライフ長野		
	7. レクリエーション III		サンライフ長野		
	8. ゴール型 I		サンライフ長野		
	9. ゴール型 II		サンライフ長野		
	10. ゴール型 III		サンライフ長野		
	11. ゴール型 IV		サンライフ長野		
	12. ネット型 I		サンライフ長野		
	13. ネット型 II		サンライフ長野		
	14. ネット型 III		サンライフ長野		
	15. ネット型 IV		サンライフ長野		
テキスト	テキストなし				
その他	身体を動かすことが出来る服装をし、接触でケガにつながる過度なアクセサリーやネイルは控える。水分を持参する。				
成績評価の方法	平常点（出席など）、活動への理解。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	専門学校非常勤講師・アウトドア事業活動代表が体育について教育を行う科目。				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	生化学・栄養学		担当者 資格・役職等	大学准教授 管理栄養士	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	<p>&lt;生化学&gt;【到達目標】</p> <p>◇生体の代謝調節機構について理解する。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>◇体の構成成分であるタンパク質、核酸（DNA、RNA）、糖質、脂質およびそれらの代謝について学習する。また、酵素、補酵素、ビタミン、電解質などについても学習し、生体の代謝調節機構について理解する。</p> <p>&lt;栄養学&gt;【到達目標】</p> <p>食事は一生を通し毎日行なわれている。学習を通して口から食べる食事の大切さを患者さんに伝えて欲しいと思う。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>生活習慣病が、日頃からの食生活に密接に関係していることからどのような食生活をしていかなければいけないのか？どのように食品を組み合わせる食べていかなければいけないのか？栄養素の働きは何か？を自分自身の食生活を振り返りながら学習していく。</p> <p>チーム医療の中にはNST（栄養サポートチーム）の活動があり、患者さんの栄養状態を計測・検査などをアセスメントし、評価していく。</p>				
授業計画	<p>&lt;生化学&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の仕組みと働き，細胞内小器官</li> <li>2. 生体内におけるタンパク質とアミノ酸の役割</li> <li>3. 生体内における糖質の役割</li> <li>4. 生体内における脂質の役割</li> <li>5. 酵素の役割と糖代謝</li> <li>6. タンパク質・アミノ酸代謝，脂質代謝</li> <li>7. 核酸とビタミン</li> <li>8. 脱水と電解質異常</li> <li>9. 酸塩基平衡とその異常</li> </ol> <hr/> <p>&lt;栄養学&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の日々の食事を記録し、反省点、改善点があるか考察する。</li> <li>2. 自分の1日の「推定エネルギー必要量」を算出する。 望ましい運動量も算出する。</li> <li>3. 栄養素の役割について</li> <li>4. 食品の消化・吸収について</li> <li>5. 栄養アセスメントについて（NST）について</li> <li>6. 特定保健指導について</li> <li>7. ライフステージの栄養について （妊娠期・授乳期・乳幼児・幼児期・学童期・成人期・老年期）</li> <li>8. 疾患と栄養</li> <li>9. 経腸栄養について</li> </ol>				
テキスト	<p>「わかりやすい生化学」（ヌーヴェルヒロカワ）</p> <p>「わかりやすい栄養学」（ヌーヴェルヒロカワ）</p>				
参考文献					
成績評価の方法	<p>筆記試験 配点／生化学60点 栄養学40点 合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目の教育内容	<p>大学准教授及び病院管理栄養士が生化学・栄養学の各分野について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人体の構造・機能から病態へⅠ		担当者 資格・役職等	医師・医師 専任教員（臨床経験19年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。				
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることを学習していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応<sup>*</sup>、変化して健康障害、すなわち疾病へと向かうのか。また、その時症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>Iにおいては循環器系を中心に授業を展開する。加えて「内分泌と代謝」のうち糖代謝、脂質代謝のしくみとその異常について学ぶ。</p> <p style="text-align: right;">※反応：内部、外部環境に反応すること</p>				
授業計画	<p>1. 循環のしくみと病態生理</p> <p>1) 心臓のポンプ機能と病態生理 (1)心臓の拍出機能の障害</p> <p>2) 血圧調節、末梢循環のしくみと病態生理 (1)血圧調節と末梢循環の障害</p> <p>2. 内分泌・代謝のしくみと病態生理</p> <p>1) 糖代謝とその異常 (1)糖代謝とそのしくみ (2)糖代謝異常</p> <p>2) 脂質代謝とその異常 (1)脂質代謝のしくみ (2)脂質異常症 &lt;8H 4回 配点30点&gt;</p> <hr/> <p>1. 検査と治療</p> <p>2. 疾患の理解 虚血性心疾患</p> <p>3. 疾患の理解 心不全 高血圧</p> <p>4. 疾患の理解 不整脈</p> <p>5. 疾患の理解 弁膜症</p> <p>6. 疾患の理解 先天性心疾患 動脈・静脈疾患</p> <p>7. 疾患の理解 &lt;12H 6回 配点40点&gt;</p> <hr/> <p>1. 循環の構造・機能(心臓・血管)と病態をいくつかの疾患(虚血性心疾患、大動脈解離、不整脈、高血圧症など)を通して学習する。</p> <p>1) 血液と血管 2) 心臓の拍出機能 3) 心電図について 4) 血液の循環 &lt;8H 4回 配点30点&gt;</p> <p>15回 筆記試験</p>				
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進2</p> <p>系統看護学講座 専門分野 循環器 成人看護学3</p>				
参考文献	<p>系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4</p> <p>からだが見える「人体の構造と機能」 メディックメディア</p>				
成績評価の方法	<p>授業参加度、筆記試験。 合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目の教育内容	<p>内科医師、循環器内科医師と看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人体の構造・機能から病態へⅡ		担当者 資格・役職等	医師、医師 専任教員 (臨床経験9年)	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。				
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ること在学习していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応<sup>*</sup>、変化して健康障害すなわち疾病へと向かうのか。また、その時 症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>Ⅱにおいては呼吸器系を中心に授業を展開する。加えて病態生理における循環障害と炎症について学ぶ。また酸塩基平衡については「体液調整のしくみと病態生理」と、「呼吸の機能としての酸塩基平衡」という2方向から学ぶ。</p> <p>※反応：内部、外部環境に反応すること</p>				
授業計画	<p>[呼吸器 主に病態]</p> <p>1. 呼吸器疾患の症状と病態生理      2. 呼吸器疾患の検査      3. 気管支喘息他 4. 肺炎・肺結核症      5. 肺腫瘍      6. 慢性閉塞性肺疾患 7. 気胸・肺線維症他      &lt;14H 7回 配点50点&gt;</p> <hr/> <p>1. 病態生理学の基礎知識</p> <p>1) 循環障害 (1) 虚血と梗塞    (2) 充血とうっ血    (3) 浮腫    (4) 出血 2) 細胞組織の障害 (1) 炎症</p> <p>2. 体液調整のしくみと病態生理</p> <p>1) 酸・塩基平衡の異常のメカニズム (1) 呼吸系調整の異常 ・呼吸性アシドーシスと呼吸性アルカローシス (2) 代謝性調整の異常 ・代謝性アシドーシスと代謝性アルカローシス      &lt;4H 2回 配点20点&gt;</p> <hr/> <p>1. 呼吸器系の構造・機能と病態をいくつかの疾患(COPDなど)を通して学習する。 2. 事例を通して呼吸器疾患患者の看護の視点を学ぶ。</p> <p>※授業予定の詳細は授業開始前に配布      &lt;10H 5回 配点30点&gt; 15回 筆記試験</p>				
テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進2 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 成人看護学2</p>				
参考文献	<p>系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 からだが見える「人体の構造と機能」 メディックメディア</p>				
成績評価の方法	<p>授業参加度、筆記試験。 60点以上を合格とする。</p>				
授業科目の教育内容	<p>内科医師と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義		
授業科目	人体の構造・機能から病態へⅢ		担当者 資格・役職等	医師、医師 専任教員（臨床経験14年）		
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。					
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることを学習していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応※、変化して健康障害すなわち疾病へと向かうのか。また、その時症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>Ⅲにおいては 脳神経系及び血液・造血器系を中心に授業を展開する。 ※反応：内部、外部環境に反応すること</p>					
業計画授	<p>[脳・神経 主に解剖]</p> <p>1. 脳・神経のはたらき 2. 脳循環のしくみ 3. 髄膜・髄液のはたらき 4. 運動制御のしくみ &lt;6H 3回 配点20点&gt;</p> <hr/> <p>[脳・神経 主に病態]</p> <p>1. 解剖・生理（中枢・末梢） 2. 意識障害、高次機能 3. 運動機能障害、感覚機能障害 4. 脳圧亢進、髄液の話 5. 脳血管障害（脳出血・脳梗塞）、頭部外傷、脳腫瘍 6. 痴呆症（脳血管性、アルツハイマー病、正常圧水頭症） 7. 末梢神経障害、変性疾患他 &lt;14H 7回 配点50点&gt;</p> <hr/> <p>[血液・造血器系]</p> <p>1. 血液・造血器系の構造・機能 2. 事例を通して血液造血器疾患患者の疾患理解と看護の視点を学ぶ &lt;8H 4回 配点30点&gt;</p> <p>15回 筆記試験</p>					
	テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進2 系統看護学講座 専門分野 脳・神経 成人看護学7 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 成人看護学4</p>				
	参考文献	<p>系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 からだが見える「人体の構造と機能」 メディックメディア</p>				
成績評価の方法	<p>授業参加度、筆記試験。 合計60点以上を合格とする。</p>					
授業科目の教育内容	<p>神経内科医師、脳神経外科医師および看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目</p>					

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人体の構造・機能から病態へⅣ		担当者 資格・役職等	医師 専任教員（臨床経験9年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。				
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることが学習していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応<sup>*</sup>、変化して健康障害すなわち疾病へと向かうのか。また、その時 症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>Ⅳにおいては消化器系を中心に授業を展開する。加えて消化吸収からエネルギー生成と細胞について、また体液調節などホメオスタシスの一部を含む内容とする。</p> <p>※反応：内部、外部環境に反応すること</p>				
授業計画	<p>[消化器系 主に病態]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化管のしくみ(構造)と働き(機能)の概要及び疾患総論</li> <li>2. 食道疾患</li> <li>3. 胃疾患1 (腫瘍を中心として)</li> <li>4. 腸疾患1 (腫瘍、炎症)</li> <li>5. 腸疾患2 (腸閉塞症、腹膜炎、ヘルニア、肛門疾患)</li> <li>6. 肝疾患(肝炎、肝硬変、肝癌)</li> <li>7. 胆・膵疾患</li> </ol> <p style="text-align: right;">&lt;14H 7回 配点50点&gt;</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>[消化器系]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器系の構造・機能と病態をいくつかの疾患(肝炎、肝硬変、膵炎、消化器系がんなど)を通して学習する。内容に消化吸収とエネルギー生成、細胞のはたらき、体液調節を含む。</li> <li>2. 事例を通して消化器疾患患者の看護の視点を学ぶ。</li> </ol> <p style="text-align: right;">※授業予定の詳細は授業開始時に配布 &lt;14H 7回 配点50点&gt;</p> <p>15回 筆記試験</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進2 系統看護学講座 専門分野 消化器 成人看護学5				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 からだがみえる「人体の構造と機能」 メディックメディア				
成績評価の方法	授業参加度、筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師と看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人体の構造・機能から病態へV		担当者 資格・役職等	医師・医師・医師 専任教員（臨床経験12年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。				
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることを学習していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応<sup>*</sup>、変化して健康障害すなわち疾病へと向かうのか。また、その時症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>IVにおいては、内分泌・代謝及びアレルギーと耳鼻咽喉を中心に授業を展開する。</p> <p style="text-align: right;">※反応：内部、外部環境に反応すること</p>				
授業計画	<p>[内分泌・代謝]</p> <p>1. 内分泌・代謝のしくみと病態生理</p> <p>1) 内分泌のしくみとその異常</p> <p>2) 糖代謝とその異常</p> <p>3) 脂質代謝とその異常</p> <p style="text-align: right;">&lt;6H 3回 配点20点&gt;</p>				
	<p>[内分泌・代謝 主に病態]</p> <p>1. 内分泌総論 視床下部・下垂体の解剖・生理</p> <p>2. 甲状腺の解剖・生理、副腎の解剖・生理</p> <p>3. 内分泌の検査、性ホルモン生理解剖</p> <p>4. 下垂体の疾患、甲状腺機能亢進症</p> <p>5. 甲状腺結節性病変、副甲状腺疾患、副腎皮質疾患</p> <p>6. 副腎髄質の疾患、糖尿病の病態・診断・治療、糖尿病合併症</p> <p>7. 脂質代謝異常、核酸代謝異常、肥満</p> <p style="text-align: right;">&lt;14H 7回 配点50点&gt;</p>				
	<p>[耳鼻咽喉、アレルギー]</p> <p>1. 耳疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療</p> <p>2. 鼻疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療</p> <p>3. 咽喉頭疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療</p> <p style="text-align: right;">&lt;6H 3回 配点20点&gt;</p>				
	<p>[内分泌・代謝、アレルギー]</p> <p>疾患と身体のしくみ</p> <p style="text-align: right;">&lt;2H 1回 配点10点&gt;</p> <p>15回 筆記試験</p>				
テキスト	系統看護学講座	専門基礎分野	解剖生理学	人体の構造と機能1	
	系統看護学講座	専門基礎分野	病態生理学	疾病の成り立ちと回復の促進 2	
	系統看護学講座	専門分野	内分泌・代謝	成人看護学6	
	系統看護学講座	専門分野	耳鼻咽喉	成人看護学14	
	系統看護学講座	専門分野	アレルギー	膠原病 感染症 成人看護学11	
参考文献	系統看護学講座	専門分野	臨床看護総論	基礎看護学4	
	からだが見える「人体の構造と機能」 メディックメディア				
成績評価の方法	授業参加度、筆記試験、課題。				
	合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	内科医師及び小児科医師、耳鼻咽喉科医師および看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人体の構造・機能から病態へVI		担当者 資格・役職等	医師 (調整中)	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。				
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることが学習していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応<sup>*</sup>、変化して健康障害すなわち疾病へと向かうのか。また、その時症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>VIにおいては 腎・泌尿器系および女性生殖器を中心に授業を展開する。  <sup>*</sup>反応：内部、外部環境に反応すること</p>				
授業計画	<p>[腎・泌尿器]  腎・泌尿器の解剖・生理および病態・検査・治療について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>腎・泌尿器の解剖・生理</li> <li>腎・泌尿器疾患の病態・検査・治療  腎不全・透析や移植など  尿路感染症・排尿障害・尿路腫瘍など</li> </ol> <p style="text-align: right;">&lt;10H 5回 配点70点&gt;</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>[女性生殖器]  1. 子宮筋腫・卵巣のう腫の症状と病態生理・検査・診断・治療  2. 子宮がん・卵巣がんの症状と病態生理・検査・診断・治療</p> <p style="text-align: right;">&lt;4H 2回 配点30点&gt;</p> <p>8回 筆記試験</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学8 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学9				
参考文献	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 からだが見える「人体の構造と機能」 メディックメディア				
成績評価の方法	筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	泌尿器科医師及び産婦人科医師（調整中）が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	人体の構造・機能から病態へⅦ		担当者 資格・役職等	医師・医師 専任教員（臨床経験21年）	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	「看護がみる解剖生理、病態」「看護実践につながる解剖生理、病態」への理解と学習の深まりを目指す。				
授業の概要	<p>看護師が働きかける実体である「からだ」を知ることを学習していくと同時に、その「構造と機能」がどのように反応<sup>*</sup>、変化して健康障害すなわち疾病へと向かうのか。また、その時症状や障害はどのようなメカニズムで発生してくるのか、について自ら考えることを意識しながら学び理解していく授業展開とする。</p> <p>Ⅶにおいては運動器系を中心に授業を展開する。加えて感覚器－眼の病態を学ぶ。</p> <p style="text-align: right;">※反応：内部、外部環境に反応すること</p>				
授業計画	<p>[運動器 主に病態]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外傷性疾患（骨折・脱臼等）</li> <li>2. 先天性疾患</li> <li>3. 炎症性疾患</li> <li>4. 腫瘍</li> <li>5. 筋・腱・神経の疾患</li> <li>6. 上肢・下肢・脊椎の疾患</li> </ol> <p style="text-align: right;">＜14H 7回 配点50点＞</p>				
	<p>[感覚器－眼]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 眼疾患の症状と病態生理・検査・診断・治療</li> </ol> <p style="text-align: right;">＜4H 2回 配点20点＞</p>				
	<p>[運動器系]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖生理と機能の復習と確認</li> <li>2. 運動器系の構造・機能と病態を、骨折・筋疾患・関節疾患などの疾患を通して学ぶ</li> <li>3. 事例を通して運動器疾患患者の看護の視点を学ぶ</li> </ol> <p style="text-align: right;">＜10H 5回 配点30点＞</p>				
テキスト	<p>15回 筆記試験</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1  系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進 2  系統看護学講座 専門分野 運動器 成人看護学6  系統看護学講座 専門分野 眼 成人看護学13</p>				
参考文献	<p>系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4  からだが見える「人体の構造と機能」 メディックメディア</p>				
成績評価の方法	<p>授業参加度、筆記試験。  合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目の教育内容	<p>整形外科医師、眼科医師および看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が人体の構造、機能、病態について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	微生物学		担当者 資格・役職等	医師	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	今後疾患を理解するために重要な微生物に対する理解を深める。				
授業の概要	<p>テキストには、多種の微生物が取り上げられていますが、国家試験で問われている微生物にはかなり傾向があります。</p> <p>かつては、大腸菌－グラム陰性桿菌といったいわゆる暗記問題が多く出題されていましたが、細菌は臨床上も重要と思われる事項が質問されています。これらを中心にして、プリントを使用し講義します。</p> <p>今後勉強する多くの疾患を理解するうえで役立つような講義を心がけます。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物とは何か ー細菌とウィルス、真菌の比較</li> <li>2. 原虫と寄生虫の比較 感染とは何か</li> <li>3. 感染防御 ー自然免疫と獲得免疫</li> <li>4. 感染予防 ーワクチンと抗血清療法</li> <li>5. 感染対策 ーヒトvs微生物</li> <li>6. 性感染症</li> <li>7. 補足 ーがん検診など</li> </ol>				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4 「微生物学」(医学書院)				
参考文献	メディサイトクイックマスターブックス2「微生物学」(医学芸術社)				
成績評価の方法	筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	産婦人科医師が微生物学について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	総合医療論		担当者 資格・役職等	医師・医師 看護師	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	保健・医療・福祉の意義について学び、総合的な見方を養う。				
授業の概要	現代医療の諸問題について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療と看護の原点</li> <li>2. 医療の歩みと医療観の変遷</li> <li>3. 私達の生活と医療</li> <li>4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線</li> <li>5. 現代医療の新たな課題</li> <li>6. 医療を見つめ直す新しい視点</li> <li>7. 保健・医療・介護・福祉の近未来像 試験</li> </ol>				
テキスト	系統看護学講座 別巻 「総合医療論」 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 「緩和ケア」 (医学書院)				
参考文献					
成績評価の方法	レポート、筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	緩和ケア病院の医師・整形外科医師および看護師が総合医療論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	社会福祉と社会保障		担当者 資格・役職等	社会福祉士	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	<p>今日人口の高齢化、子供の数の減少、更には人口そのものの減少等、社会保障のありようは今度さらに多様な変化が予想され、そのつど日常の看護業務に必要な知識（技術）として、いっそうの向上をはかり、社会保障が対応している生活問題に直面し、苦悩している患者・家族等に対して、真に共感し得る基本的姿勢を育みつつ、医療支援と生活支援を一体的に、協働して取り組む地域医療・地域福祉の方向をこの授業の中で感じ取り身につけていくことを目指します。</p>				
授業の概要	<p>通常私たちは、働いて、収入を得て、生活を継続していくということを繰り返しながら安定した生活を営んでいます。しかし、生活を継続していく途上には、不確実な出来事、予期せぬ出来事が起こって、その循環が正常に回らない状態になることがあります。病気やケガによって生活が成り立たなくなるなどは、その端的な例と言えます。</p> <p>私たちは、医療現場と言う枠の中で、病気やケガに苦しむ人々に対し、命を救い、回復につなげ、再び元の生活状態に戻れるように手助けすることを職業としております。医師、看護師等々医療従事者の支えを得て病気やケガを克服したとしても、患者にとっては、これからの生活をどのように維持していくかが大きくのしかかってきます。</p> <p>そのような国民の生活問題・医療問題・福祉問題の直接の誘因となる病気やケガ等において、予防、治療、リハビリテーションに関わる医療従事者、とりわけその中でも患者と接する場面を最も多く持つ看護師には大きな期待と役割が課せられているようになってきています。すなわち看護職にあっても、社会保障、社会福祉に対する知識を一層豊富にし、刻々と変容、進化するその内容を正しく理解し、患者・国民の医療、保健、福祉、そして生活の向上に寄与していくことが、看護という業務に従事する上での重要な課題となっております。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、社会保障制度、社会福祉の法制度、現代社会の変化と社会保障・社会福祉</li> <li>2、医療保障</li> <li>3、介護保険制度</li> <li>4、公的扶助（生活保護）制度</li> <li>5、高齢者福祉、児童福祉</li> <li>6、障害者福祉</li> <li>7、母子保健、婦人保護、その他の福祉</li> <li>8、試験</li> </ol>				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 「社会保障・社会福祉」 医学書院				
参考文献	厚生指針・国民衛生の動向（厚生統計協会） 社会保障の手引（中央法規出版）				
成績評価の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	社会福祉士が社会福祉と社会保障について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護関係法規		担当者 資格・役職等	保健所 副所長兼総務課長	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	看護職としての法的責任を自覚すると共に、職業人としての身分の保証、権利が守られていることを理解する。				
授業の概要	看護を実践する上で対象に必要な法の活用法を学ぶ。				
授業計画	1. 保健師助産師看護師法 2. 保健医療と法 3. 保健衛生法規 4. 生活衛生法規 5. 薬事法規 6. 労働関連法規  試験				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	保健所副所長兼総務課長が看護関係法規について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	公衆衛生と地域保健		担当者 資格・役職等	保健所所長	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標 授業の概要	自分自身、家族、職場、地域の健康づくりを推進する方法について学ぶ。				
授業の概要	健康に寄与する要因を知り、自分自身、家族、職場、地域の健康づくりを推進する方法について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生とはなにか</li> <li>2. 公衆衛生の活動対象</li> <li>3. 健康指標</li> <li>4. 母子保健</li> <li>5. 環境保健</li> <li>6. 感染症</li> <li>7. 成人保健</li> <li>8. 高齢者保健</li> <li>9. 精神保健</li> <li>10. 障害者保健・難病保健</li> <li>11. 産業保健</li> <li>12. 災害保健</li> </ol> <p>試験</p>				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 2 「公衆衛生」(医学書院)				
参考文献					
成績評価 の方法	筆記試験。 60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	保健所所長が公衆衛生と地域保健について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	看護学概論		担当者 資格・役職等	教務主任（臨床経験12年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	看護学全般に対する学問的基盤の土台を形成するため、「看護とはなにか」について、看護の理念、看護実践の原理と倫理、看護の対象となる人間とその健康、健康障害の経過、看護の提供者である看護職者の教育・制度・組織、看護に対する社会的要請などの多角的な観点から理解する。				
授業計画	1. 看護とは（准看護師と看護師の違いから） 【講義】 2. 看護とは（看護の本質・変遷・看護の定義） 【講義】 3～6. 看護とは（看護理論家が提唱する看護について学ぶ、グループ発表を通して学びを共有する） 【グループワーク・発表】 7. 看護の役割と機能・地域で活躍する看護師 【講義・個人ワーク】 8. 看護の対象の理解 【講義】 9.            " 【講義】 10. 国民の健康状態と生活 【講義】 11. 看護の提供者 【講義】 12. 看護における倫理 【講義・グループワーク】 13. 看護の提供の仕組み 広がる看護の活動領域（国際化と看護） 【講義】 14. 健康障害を持つ人々に共通する経過の特徴 【講義】 15. 試験				
講義履修における授業準備	【予習】 これまでに学習した「看護理論家」について復習を行う。（1時間程度） 【復習】 授業を通して「看護とはなにか」について自己の考えを深める。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1「看護学概論」（医学書院） 基礎看護学4「臨床看護総論」（医学書院）				
参考文献	実践に生かす看護理論19（医学芸術社） 看護理論化の業績と理論評価（医学書院）				
成績評価の方法	授業参加度・課題レポート・筆記試験。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院等での臨床経験がある教務主任が看護学概論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	基礎看護技術 I		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験12年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	看護を実践するための思考過程として、事例を用い、問題解決法のプロセスを学ぶ。				
授業計画	①看護過程を展開する際の基盤となる考え方 問題解決思考・クリティカルシンキング・リフレクション・倫理的配慮 と価値判断			講義	チーム学習
	②看護過程とは ・5つの構成要素とその関係性、事例紹介			講義	個人ワーク
	③アセスメント 情報収集と分析 情報収集とは ・看護理論とアセスメントの枠組み 情報収集の方法・情報の分析			講義	個人ワーク
	④⑤アセスメント			個人ワーク	
	⑥アセスメントをプレゼンテーション、共有 不足情報を明確にする。補足・修正			チーム学習	
	⑦⑧関連図（全体像の把握） ・疾病によって引き起こされる状況・反応の関係性を図示する			講義	個人ワーク
	⑨関連図をプレゼンテーション、共有 関連印紙・危険因子を明確にする。補足・修正			チーム学習	個人ワーク
	⑩看護問題の明確化（看護診断） ・看護問題の種類、原因（関連因子・危険因子）、 看護問題の優先順位、問題リスト			講義	個人ワーク
	⑪患者のゴール（解決目標） ・看護の方向性の明確化 ・看護介入によって患者の望ましい姿・変化を明確にする			講義	個人ワーク
	⑫看護計画立案 ・期待される盛夏の明確化 ・具体的、個別性ある看護計画			講義	個人ワーク チーム学習
	⑬看護計画をプレゼンテーション、共有、補足、修正			チーム学習	
	⑭・看護記録SOAP ・看護過程の評価 ・看護過程の意義			講義	チーム学習
	⑮単位認定試験				
テキスト 参考文献	専門分野 基礎看護技術 I（医学書院） 専門分野 循環器 専門基礎 解剖生理学 専門基礎 病態生理学 看護過程の解体新書（学研）				
成績評価 の方法	筆記試験（配点50点）、成果物（配点50点）、授業参加度。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	看護師として病院などでの臨床経験を持つ専任教員が基礎看護技術について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	基礎看護技術Ⅲ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験21年）	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	<p>人々の健康状態を身体的・精神（心理）的・社会的な視点から総合的にアセスメントすることは、看護の質や方向性を決定する重要な力である。その中の、健康の査定を行うための具体的な情報収集の方法（フィジカルアセスメント）の基礎を学ぶ。フィジカルアセスメントは、ヘルスアセスメントの中に含まれ、身体的な情報収集（フィジカルイグザミネーション）の技法を講義と演習で学ぶ。</p>				
授業計画	<p>1. はじめに フィジカルアセスメントを行う上で必要な考え方、ヘルスアセスメントとは、健康歴とセルフケア能力のアセスメント 【講義】</p> <p>2. 全体の概観 フィジカルアセスメントに必要な技術、全身状態・全体印象の把握 バイタルサインの観察とアセスメント計測 【講義】</p> <p>3～4. 技術演習、フィジカルアセスメントに必要な技術、 バイタルサイン、計測 【演習】</p> <p>5～6. 系統別フィジカルアセスメント 1) ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 【講義、演習】</p> <p>7～8. 3) 循環器系のフィジカルアセスメント 【講義、演習】</p> <p>9～10. 4) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 5) 腹部のフィジカルアセスメント 【講義、演習】</p> <p>11～12. 6) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 7) 神経系のフィジカルアセスメント 8) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント 【講義、演習】</p> <p>13. 9) 外皮系のフィジカルアセスメント 【講義、演習】</p> <p>14. 心理・社会状態のアセスメント、まとめ 【講義】</p> <p>15. 単位認定試験</p>				
履修における 授業準備	<p>【予習】 准看護学科時代の学びを想起し、フィジカルアセスメントに必要な技術（バイタルサイン測定、計測）を確実に実施できるようにしておく。他適宜提示。 【復習】 各演習の後に振り返りを行い、理解を深めておく。（計15時間程度）</p>				
テキスト	<p>フィジカルアセスメントガイドブック 第2版（医学書院） 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学</p>				
参考文献	<p>看護技術プラクティス 第4版（学研） 看護がみえる3 フィジカルアセスメント（メディックメディア）</p>				
成績評価 の方法	<p>筆記試験、授業参加度、提出物等（別途提示） 合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目 の教育内容	<p>看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護技術について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	基礎看護技術Ⅳ		担当者 資格・役職等	看護師 専任教員（臨床経験9年） 専任教員（臨床経験11年）	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	<p>基本的な考え方を学び感染防止に必要な知識・技術を習得する。 また、准看護師教育において学んできた技術及び知識を意識させながら、診療に伴う援助技術を理解する。</p>				
授業の概要	<p>1. 人々の健康を守るという看護師の役割を果たす為に、感染防止対策について熟知し、実践することはもちろん、それらの知識・技術を常に更新する努力が求められる。基本的な考え方を学び感染防止に必要な知識・技術を習得する。 2. 対象の基本的ニーズの充足のために必要な看護処置について、安全・安楽かつ正確に行う技術を学ぶ。基礎看護技術では、専門領域の看護技術の基盤となる内容を学習する。死の看取りの技術として、家族への対応・死後の処置の技術を学ぶ。</p>				
授業計画	<p>1-1) 感染防止の基礎知識 1-2) 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1-3) 感染経路別防止策 1-4) 洗浄・消毒・滅菌 1-5) 無菌操作（演習も含む） 1-6) 感染性廃棄物の取り扱い 1-7) 針刺し防止策 1-8) 医療施設における感染管理</p> <p>2-1) 呼吸・循環を整える技術の基礎知識 ・酸素療法 ・排痰ケア ・胸腔ドレナージ ・人工呼吸療法 ・抹消循環促進ケア など</p> <p style="text-align: right;">&lt;12H 6回 50点&gt;</p>				
	<p>2-2) 与薬の基礎知識と実際① 2-3) 与薬の基礎知識と実際② (1) 与薬における看護師の役割 (2) 与薬の種類と援助の実際 (3) 事例を用いて注射の方法を考える（演習） ・皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射（ワンシヨット、点滴）など</p> <p>2-4) 与薬に関する計算 2-5) 輸血援助の基礎知識 ・概要、目的、種類、副作用、援助の実際</p> <p style="text-align: right;">&lt;12H 6回 50点&gt;</p>				
	<p>3. エンゼルケア（講義・演習） ・死後のケアの基礎知識 ・死後の処置の実際</p> <p style="text-align: right;">&lt;4H 2回&gt;</p>				
テキスト	<p>系統看護学講座 専門 基礎看護学2 「基礎看護技術Ⅰ」 系統看護学講座 専門 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」</p>				
参考文献	<p>「看護技術プラクティス」（学研） 「看護がみえる①基礎看護技術」（メディックメディア） 「看護がみえる②臨床看護技術」（メディックメディア）</p>				
成績評価の方法	<p>授業参加度、筆記試験、提出物など。 合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目の教育内容	<p>看護師と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護技術について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	地域・在宅看護概論Ⅰ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験18年）	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標 授業の概要	<p>生産年齢人口の減少に伴う社会構造の変化は、社会の仕組みを大きく変えようとしている。病気の有無・年齢に関係なく、あらゆる人々がより良く健康に生きることを支えるために、看護師には人々を「患者」としてではなく「生活者」として捉えることが求められている。地域・在宅看護学概論Ⅰでは、フィールドワーク・グループワークを通して、“地域”“地域での暮らし”“地域で暮らす人々と健康”“地域で行われている支援”について学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. “地域”と“地域で暮らす人々”について考える 講義・グループワーク</li> <li>2. “地域で暮らす人々”と“健康” 講義</li> <li>3. フィールドワークについて 講義</li> <li>4. フィールドワーク 計画書作成 グループワーク</li> <li>5. フィールドワーク 学習のまとめ グループワーク</li> <li>6. フィールドワーク 学習成果発表 グループワーク</li> <li>7. まとめ</li> </ol> <p>履修における授業準備</p> <p>【予習】フィールドワークに関する事前学習・準備</p> <p>【復習】学習成果発表に向けた準備</p>				
テキスト 参考文献	<p>在宅看護論①地域療養を支えるケア（ナーシンググラフィカ）  在宅看護論②在宅療養を支える技術（ナーシンググラフィカ）  公衆衛生がみえる（メディックメディア）</p>				
成績評価 の方法	<p>筆記試験、授業参加度。  合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目 の教育内容	<p>看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が地域・在宅看護概論について教育を行う科目</p>				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ		担当者 資格・役職等	専任教員（臨床経験9年）	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標 授業の概要	国は、2025年をめどに「地域包括ケアシステム」の構築を目指している。住み慣れた場所で最期までその人らしく生きることを支援するために、地域・在宅看護学概論Ⅱでは、基盤となる概念と制度を中心に学ぶ。				
授業計画	<p>1. 地域で暮らす人々と生活・社会</p> <p>【講義】地域で暮らす人々の「生活」「社会」について学ぶ。自分自身と地域や社会がどのようにつながっているか、また、地域、生活と健康がどのような関係にあるか、社会背景をふまえながら考える。</p> <p>【グループワーク】 グループで自分自身の生活と、地域・社会のつながりについて共有する。</p> <p>2. 地域における看護活動（社会的環境）（人口動態）</p> <p>【講義】人口・世帯・健康・保健・医療提供体制に関する動向について統計データから学ぶ。</p> <p>【グループワーク】地域での生活、統計結果から地域で暮らす人々のニーズや健康課題について考える。</p> <p>3. 生活と健康に必要な支援</p> <p>【講義】①こども・成人・高齢者・障害を持つ人の生活を具体的にイメージする。 ②それぞれの生活と健康に必要な支援を考える。</p> <p>4. 生活と健康を支える人々</p> <p>【講義】人々を支える多職種連携と協働による地域ケア・ケアチームの連携・継続支援などについて学ぶ。</p> <p>5. 地域包括ケアシステム</p> <p>【講義】地域包括ケアシステムの構成・機能について理解する。地域包括ケアシステムの役割について学ぶ。</p> <p>6. 訪問看護の制度と機能</p> <p>【講義】訪問看護の目的と機能を理解し、訪問看護ステーションの仕組みをはじめとする訪問看護制度や提供内容、方法について学ぶ。</p> <p>7. 地域・在宅看護に関する制度</p> <p>【講義】地域療養を支える制度について学ぶ。①医療保険制度②後期高齢者医療制度③介護保険制度</p>				
テキスト 参考文献	在宅看護論①地域療養を支えるケア（ナーシンググラフィカ） 国民衛生の動向 公衆衛生がみえる（メディックメディア）				
成績評価 の方法	筆記試験、授業参加度。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が地域・在宅看護概論について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	成人看護学概論・保健		担当者 資格・役職等	保健師 専任教員（臨床経験14年）	
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標 授業の概要	<p>&lt;概論&gt;  「成人期にある人の特徴と健康増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護実践できる基礎的能力を養う」ことを目的に行なう。まず始めに、成人期はどのような年代であるか知り、人生の中で長い成人期を看護の立場から青年期、壮年期、向老期と3期に分け、それぞれの発達課題を学ぶ。そして、成人期は働き盛りの年代として、また次に訪れる老年期に先立つ年代としてとらえ、成人期にある人々を看護する立場に立って観察、判断するための視点とする。成人各期の身体的・社会的・心理的な特徴を知り、そこから保健上の問題を学ぶ。</p> <p>&lt;保健&gt;  ・成人保健問題の動向(人口、平均寿命、主要死因別死亡の年次推移、年齢階級別死亡数、主要傷病別、受療率の年次推移)と保健対策を理解する。  ・生活習慣病の発生要因、予防方法について、看護の役割等を理解する。  ・成人保健と、職場の健康管理(労働衛生)の方策について、看護の役割と関係づながら理解する。</p>				
授業計画	<p>&lt;概論&gt;  1. おとな、成人とは 成人期の位置づけと成人期の区分  2. 成人期にある人の基本的な捉え方・考え方  3. 成人期にある対象を「社会生活の営み」の視点から理解する  4. 成人期の対象にある人の健康観  5～7. 成人看護に有用な理論  「成人学習持論」「危機理論」「自己効力理論」など  &lt;14H 7回 配点50点&gt;</p> <hr/> <p>&lt;保健&gt;  1. 成人保健問題の動向と関連要因  2. 成人を対象にした保健政策  3. 成人を対象にした健康教育  4. 生活習慣病とその発生要因、予防方法、看護の役割  5. 生活習慣病とその発生要因、予防方法、看護の役割  6. 成人保健と労働  7. 職業と保健、家事労働と保健  &lt;14H 7回 配点50点&gt;</p>				
テキスト	ナーシング・グラフィカ成人看護学①「成人看護学概論」(メディカ出版)				
参考文献	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 公衆衛生がみえる(メディックメディア)				
成績評価の方法	筆記試験、課題。 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	保健師と看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学概論・保健について教育を行う科目				